

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

| 大学名 | | 九州国際大学 | | 設置者名 | | 学校法人 九州国際大学 | | |
|----------------------------|-----------------|--------|---------------------|--------|--------------------------|-------------|-----|------------|
| 学部・学科等の名称等 | | | 認定を受けている免許状の種類・認定年度 | | 免許状取得状況・就職状況 (平成20年度) | | | |
| 学部 | 学科等 | 入学定員 | 免許状の種類 | 認定年度 | 卒業者数 | 免許状取得者数 | | 教員 就職者数 |
| | | | | | | 実数 | 個別 | |
| 法学部 (昼間主 コース) | 法律学科 | 140人 | 中一種免(社会) | 平成12年度 | 79人 | 1人 | 1人 | 0人 |
| | | | 高一種免(公民) | 平成12年度 | | | 1人 | |
| 法学部 (夜間主 コース) | 法律学科 | 40人 | 中一種免(社会) | 平成12年度 | 39人 | 2人 | 0人 | 0人 |
| | | | 高一種免(公民) | 平成12年度 | | | 2人 | |
| 経済学部 (昼間主 コース) | 経済学科 | 110人 | 中一種免(社会) | 平成12年度 | 112人 | 2人 | 1人 | 0人 |
| | | | 高一種免(公民) | 平成12年度 | | | 2人 | |
| | | | 高一種免(地理歴史) | 平成12年度 | | | 0人 | |
| | 経営学科 社会コース | 100人 | 中一種免(社会) | 平成14年度 | 77人 | 0人 | 0人 | 0人 |
| | | | 高一種免(公民) | 平成14年度 | | | 0人 | |
| | | | 高一種免(商業) | 平成14年度 | | | 0人 | |
| 経済学部 (昼間主 コース) | 経済学科 | 40人 | 中一種免(社会) | 平成12年度 | 41人 | 6人 | 3人 | 0人 |
| | | | 高一種免(公民) | 平成12年度 | | | 5人 | |
| | | | 高一種免(地理歴史) | 平成12年度 | | | 4人 | |
| | 経営学科 社会コース | 30人 | 中一種免(社会) | 平成17年度 | 21人 | 0人 | 0人 | 0人 |
| | | | 高一種免(公民) | 平成17年度 | | | 0人 | |
| | | | 高一種免(商業) | 平成17年度 | | | 0人 | |
| 国際関係 学部(昼 間主コ ース) | 国際関係学科 英語コース | 100人 | 中一種免(英語) | 平成17年度 | 89人 | 4人 | 3人 | 1人 |
| | | | 高一種免(英語) | 平成17年度 | | | 1人 | |
| | 社会コース | | 高一種免(公民) | 平成17年度 | | | 2人 | |
| 国際関係 学部(夜 間主コ ース) | 国際関係学科 英語コース | 40人 | 中一種免(英語) | 平成17年度 | 29人 | 3人 | 0人 | 0人 |
| | | | 高一種免(英語) | 平成17年度 | | | 0人 | |
| | 社会コース | | 高一種免(公民) | 平成17年度 | | | 3人 | |
| 入学定員合計 | | 600人 | 合計 | | 487人 | 18人 | 28人 | 1人 |

| 大学名 | 九州国際大学(大学院) | | 設置者名 | 学校法人 九州国際大学 | | | | |
|------------|---|------|---------------------|-------------|--------------------------|---------|----|--------|
| 学部・学科等の名称等 | | | 認定を受けている免許状の種類・認定年度 | | 免許状取得状況・就職状況 (平成20年度) | | | |
| 研究科 | 専攻等 | 入学定員 | 免許状の種類 | 認定年度 | 卒業者数 | 免許状取得者数 | | 教員就職者数 |
| | | | | | | 実数 | 個別 | |
| 法学研究科 | 法律学専攻 | 10人 | 中専修免(社会) | 平成8年度 | 9人 | 0人 | 0人 | 0人 |
| | | | 高専修免(公民) | 平成8年度 | | | 0人 | |
| 企業政策研究科 | 企業政策専攻 社会コース | 20人 | 中専修免(社会) | 平成13年度 | 18人 | 0人 | 0人 | 0人 |
| | | | 高専修免(公民) | 平成13年度 | | | 0人 | |
| | 商業コース | | 高専修免(商業) | 平成13年度 | | | 0人 | |
| 入学定員合計 | | 30人 | 合計 | | 27人 | 0人 | 0人 | 0人 |
| 備考 | <p>・「学部・学科等の名称等」欄は、平成21年4月1日現在の名称・定員である。</p> <p>・「免許状取得者数」欄の「実数」欄には各学科等の実人数を、「個別」欄には各学科等内の教職課程ごとの人数である。</p> | | | | | | | |

実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成21年11月27日（金）

実地視察大学：九州国際大学

実地視察委員：大坪治彦委員、壺内明委員、野村新委員

■ 大学の教員養成に対する全般的な状況

<状況>

- ・3学部4学科の大学で教員養成を行っている。
- ・教員養成に関する教育課程、教員組織等については、全般的に基準を満たしており、教職課程の充実ぶり、積極的な取組が見られる。

<講評>

- ・今後とも引き続き、教員養成の水準の維持向上に努めてほしい。
- ・地元地域から要求されるものに答えるような教育成果を挙げてほしい。

■ 教員養成に対する理念、設置の趣旨等の状況

<状況>

- ・教員養成に対する理念は、大学の理念と同様、北九州の地域的特性に鑑み、この地域に開かれた教育とその実践性（実務に役立つ教育）を重視し、勤労者教育と塾的精神による実学主義に支えられた教員の養成である。
- ・教員として必要な資質能力を修得させるため、授業や生徒指導を行える高い実践力を目標とし、そのための教職課程の運営においては、少人数教育でこそ可能となる教師と学生との対話による双方向型授業を展開して、教員としての姿勢、教職に対する情熱、さらにそれらを基礎とした、幅広い視野に立つ問題発見・解決能力の向上を行っている。
- ・教職課程の授業においては、模擬授業を中心にした授業内容とするなど、実学を重視した授業構成を取っている。

<講評>

- ・教員養成に対する理念・構想が明確にされており、それを具現化するための教職課程や教員組織が整備されていると考える。
- ・教員養成に対する理念・構想については評価できる。
- ・全学的な教員養成とともに、各学部学科においても、明確な教員養成の理念を構築してほしい。
- ・大学院について、社会人や現職教員を対象とした、明確な理念・構想を確立してほしい。

■ 教育課程（教職に関する科目等）、履修方法及びシラバスの状況

<状況>

- ・教職に関する科目の履修時期について、一部の科目が科目趣旨と整合していない。
- ・教員によって、成績評価の基準が異なっている。
- ・法令上含めることと定められている必要事項が、授業科目によっては明確に示さ

れていないシラバスが見られる。

- ・模擬授業には現職の教員も参加している。

<講評>

- ・基礎教育を確実にしながらも、教職課程における授業科目を一年次から履修できるようにしてほしい。
- ・教職の授業として、授業に出席するのは当然のことであるため、出席するのみで加点するような評価方法は見直すこと。
- ・法令で定める事項が各授業科目に含められているかどうかも含めて、授業科目内容を全体的に確認すること。
- ・シラバスの様式を全学的に統一するなど、シラバスの整備を図ってほしい。
- ・模擬授業を中心とした授業内容は評価できるが、具体的な場面を設定するなどのさらなる工夫を図ってほしい。
- ・少人数教育に対する意識の高さは評価できるが、教員が積極的に学生と接することや席の配置を工夫するなど、少人数教育のメリットを重視した授業方法に改善してほしい。
- ・学校現場を意識した授業内容としてほしい。
- ・特別支援教育に関する内容を、授業科目「教育心理学」はもちろんのこと、他の授業科目でも扱ってほしい。
- ・各教科の指導法科目について、学習指導要領にある「導入・展開・まとめ」に関するそれぞれの意味を教授すること。

■ 教育実習の取組状況

<状況>

- ・実習校の確保については、学生の希望により出身校（母校）や附属中学校・高等学校、市教育委員会所管の中学校・高等学校を実習校としている。
- ・受講資格は、一定の基準以上の単位を修得し、かつ大学が指定する教職に関する科目を履修済みであることである。
- ・卒業し教員となった者が、一週間程度夜間の部の講義を持つなどの事前指導の取組に参加している。
- ・教職課程の担当教員と事務局が、実習先を訪問するようにしている。
- ・社説を読ませるなどの、実習参加におけるフォローアップを行っている。

<講評>

- ・教育実習を大学の教職課程の中で適切に位置づけており、実習校や教育委員会との連携協力を図るなど、その円滑な実施に努めているほか、事前指導の実施についても、授業方法に創意工夫が見られ、評価できる。
- ・実習校として、附属校を活用してほしい。
- ・学生が作成した学習指導案や教育実習報告書の蓄積を行ってほしい。

■ 学校現場体験・学校ボランティア活動などの取組状況

<状況>

- ・学校現場体験として、教育実習前に、附属中学校・附属高等学校において授業見学を各教科に分かれ実施している。また、授業見学後にはミーティングを行ない、授業の進め方や生徒への質問の仕方などの助言を教員からいただき、学生が円滑に

教育実習の運営ができるよう指導している。
・学校ボランティア活動は、学生の自主性に任せている。

<講評>

・学校ボランティア活動を学生が必ず体験できる仕組みの構築に、全学的な組織で取り組んでほしい。

■ 教職指導及びその指導体制の状況

<状況>

・希望者を対象にした説明会は各年次に随時実施し、学務事務室職員が対応している。
・学生の個別の相談等は、教職担当教員が適宜対応しているが、必要に応じて「教職・図書館学課程委員会」においても協議している。また研究棟には、研究室の1室を教職専用の部屋として利用し、教職担当教員が学生を指導する場としている。
・教職を目指す学生に対して、教員免許の取得に必要な免許法施行規則に定める本学の開設授業科目の履修方法、最低修得単位数等を説明し、安易な資格取得を目的としたものにならないよう指導を行っている。

<講評>

・教職指導を厳格にしていることは評価できる。今後は、教員免許状取得の増加にも取り組んでほしい。

■ 教員養成カリキュラム委員会などの全学的組織の状況

<状況>

・組織的な取り組みとして、教職課程、図書館学課程並びに司書教諭資格に関する事項を審議するために、「教職・図書館学課程委員会」を設置（構成員は、教務部長を委員長として、教職課程専任者、図書館学課程専任者、各学部から選出された委員）している。

■ 施設・設備（図書等を含む。）の状況

<状況>

・教職に関する科目の図書等の冊数は、7, 430冊となっている。
・コンピュータ等は、257台備えられている。

<講評>

・施設・設備が全般的には整備されており評価できる
・集書計画が明確になっているため、より詳細に購入する本を決定してほしい。
・教職オフィスの位置づけを明確にすること。
・キャリア支援室が大変充実して活発なキャリア教育がなされているが、キャリア支援室の中での教職の位置付けがほしい。